

# 事業報告書

2016年6月1日から2017年5月31日まで

一般財団法人教育支援グローバル基金

## 1. 主要な事業の成果

一般財団法人教育支援グローバル基金は、2016年6月から2017年5月に、日本全国の高校生、大学生を対象としたリーダー育成事業「ビヨンドトゥモロー」を開催した。ビヨンドトゥモローの中でも、東北（岩手県・宮城県・福島県）の学生を対象とした事業を「東北事業」と呼び、それ以外の日本全国の学生を対象とした事業を「ジャパン事業」と呼び、財源を分けて管理した。

### (1) 奨学金事業

- a. **ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2017**: 親との死別・離別を体験していたり、児童養護施設に暮らすなど、社会経済的に困難な状況に置かれた若者こそ、今後、人の心の痛みに想いを馳せ、世界や日本のために行動するリーダーになる資質を有しているというミッションの下、進学のための奨学金（返済不要）年間72万円を給付。選考に際しては、親との死別・離別を経験していたり、児童養護施設に暮らす者について加点し、社会経済的に困難な状況にある者を優先的に対象にするようにした。
- b. **エンデバー2017**: 児童養護施設に暮らす日本全国の高校生を対象とし、進学準備に際する費用（センター試験受験料、入学検定料など）を年間上限10万円の給付型の奨学金として支給する事業を開始した（奨学金の振込は2017年度予定）。

### (2) フェロシップ事業（2016年度にて終了）

**ジャパン未来フェローズプログラム 2016**: 2016年度に開始した事業で、日本全国の高校生・大学生を対象に、年間4回、国内外で開催されるリーダーシップ・モジュールの参加を通して参加学生の人的成長を促すことを目的とし、参加に係る諸経費の大部分を主催者が奨学事業として負担するものである。日本全国の学生からビヨンドトゥモローの趣旨に最も合致すると考えられる学生を選抜し、34名の学生が、年間4回にわたって開催された人材育成プログラムに参加した。

### (3) リーダーシッププログラム事業

#### a. 夏季グローバル研修 米国サマープログラム 2016 ～村瀬二郎記念奨学事業～ 2016年7月・8月（米国・14日間）

日本全国から、広く世界に活躍するリーダーとなる志を持ちながらも、グローバルな経験を積む機会が限られている環境にある学生14名がボストン・ワシントンDC・ニューヨークを訪問し、米国の歴史や文化、社会について学んだ。また、各都市で活躍するリーダーたちとの交流を通じ、日本の現状をアメリカの人々に伝えるアンバサダーとしての役割も果たすことができた。ボストンでは、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、マサチューセッツ州立大学ボストン校を訪問し、共同プログラムの機会があった。ワシントンDCでは、ホワイトハウスや連邦議会、世界銀行やCouncil on Foreign Relationsを訪問し、特別セッションに参加した。ニューヨークでは9.11のテロの犠牲者の家族や友人たちとの交流や、ジャパン・ソサエティーでの閉会式を行った。本プログラムは、日米両国の架け橋として活躍された故村瀬二郎氏のご遺志を継ぎ、日米交流の担い手となる若者がアメリカの空気に触れ、多くのアメリカ人に出会い、米国社会について学ぶことを目的とした「村瀬二郎記念奨学事業」として開催した。

**b. 夏季グローバル研修 アジアサマープログラム 2016 2017年8月（韓国・9日間）**

本プログラムは、日本全国から集まった高校生・大学生 11 名が、韓国の学生と共にソウル、大田、釜山を訪問し、社会格差や若者の雇用、移民など両国に共通する課題に対して日韓の若者がどう協働できるかを考えるべく、様々な現地視察やワークショップに参加した。プログラム中の活動は、最終的に提言にまとめ、釜山で行われた閉会式にて発表した。また、プログラムを通して日韓の学生が互いの人生や将来について対話をする事で、国籍の違う人々との信頼構築のプロセスを経験し、建設的な二国間関係醸成の礎となる絆を育んだ。

**c. ジャパン未来リーダーズサミット 2016 2016年10月（東京・3日間） テーマ「若者が輝くことができる社会の実現」**

親との死別・離別や、児童養護施設で生活しているなど、様々な事情により機会を得ることが難しい状況にありながらも、広く社会のために役立つ人材となる志をもつ全国の高校生・大学生を対象に、本サミットでは、多様な領域で活躍するリーダーたちによるアドバイスの下、「若者が輝く社会」の実現に向けた提言をグループ毎にまとめ、最終日には政治・行政・ビジネス・メディア・NGO など各方面のリーダーたちの前で発表する機会を提供。「体験共有」「スピーカーセッション」「ディスカッション」「提言作成」など様々なモジュールを通じて、幅広い領域で活躍するリーダーたちによるアドバイスの下、若者が輝くことができる社会のあり方について提言をまとめ、最終日の閉会式で発表した。閉会式には、竹中平蔵様（慶應義塾大学教授）にゲストとして出席いただいた他、提言発表にて優勝に選ばれたチームが、後日、総理公邸を訪問し、プレゼンテーションを行った。

**d. ビヨンドトゥモロー 3月オリエンテーション・プログラム 2017 2017年3月（東京・岩手・宮城 4日間）**

ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2017 及びエンデバー2017 参加者が集まり、ビヨンドトゥモローについての理解を深め、仲間たちとの信頼を築き、今後の1年間、自分たちが何をしたいかを考える機会を提供。前半2日は東京で開催し、自分たちの今後のアクション・プランを作成し、「東京フォーラム」にて、加藤勝信一億総活躍担当大臣（当時）や、安倍昭恵首相夫人の前で発表。後半2日は、岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市及び南三陸町を訪問し、2011年に発生した東日本大震災はどのようなものだったかを学び、また、参加者たちと同世代の被災地の若者たちが、震災後の日々をどのように生きてきたのかについて理解を深めた。4日間の活動を踏まえて、自分たちが社会のために何ができるかを考えた成果は、宮城県仙台市で開催した「仙台フォーラム」にて、村井嘉浩宮城県知事の前で発表した。

**e. ビヨンドトゥモロースプリングプログラム 2017 2017年3月（東京・3日間）**

ジャパン未来フェローズプログラム 2016 参加者が一堂に会し、1年間のプログラムの総まとめとして、ビヨンドトゥモロー参加者としてのミッションをふりかえり、1年間の活動を総括し、将来のビジョンについて考える機会を提供。1年間を通して取り組んだ「マイ・プロジェクト」の成果をチーム毎にまとめた他、スピーカー・セッションや、海外から招聘したファシリテーターによるワークショップなどを通じて、1年間のフェローズプログラムを通して学んだ内容に改めて考え、今後、社会をよりよいばにするために自分たちに何ができるかを考える機会を得た。

2. 主要な事業の実施状況  
(奨学金事業)

事業名	対象者	選抜方法	参加者人数	内容	支出額 (東北)	支出額 (ジャパン)
ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2017	2017 年度に、大学・短大・専門学校に新たに進学予定の者及び、前年度に「ジャパン未来フェローズプログラム 2016」に参加していた者。	1 次選考：書類審査 (課題作文) 2 次選考：面接審査 (グループディスカッション)	21 名	年間 72 万円の給付型奨学金の支給及び、年間約 4 回の人材育成プログラムへの参加	3,580,374 円	4,504,352 円
エンデバー 2017	児童養護施設に暮らす高校生(2017 年度に 2 年次、3 年次に在籍)で、高校卒業後に進学を志す者。	1 次選考：書類審査 (課題作文) 2 次選考：本人及び施設長との面接	8 名	年間 10 万円(上限)の給付型奨学金の支給(高校 3 年生のみ)及び年間約 4 回の人材育成プログラムへの参加	-	1,369,033 円

(フェローシップ事業)

事業名	対象者	選抜方法	参加者人数	内容	支出額 (東北)	支出額 (ジャパン)
ジャパン未来フェローズプログラム 2016	2016 年度に、大学・短大・専門学校に新たに進学予定の者及び 2016 年 4 月時点で、高等学校 2 年または 3 年に在籍している者。	1 次選考：書類審査 (課題作文) 2 次選考：面接審査 (グループディスカッション)	34 名 (東北：15 名 ジャパン：19 名)	2016 年 3 月から 2017 年 3 月までの間の 4 回のモジュール(海外研修含む)の参加費を財団が負担する。	274,950 円	311,861 円

※ジャパン未来フェローズプログラム 2016 に内包される各種人材育成プログラムの費用は、下記「リーダーシッププログラム事業」の各プログラムに計上。

(リーダーシッププログラム事業)

	日時	開催場所	対象者	人数	内容	支出額 (東北)	支出額 (ジャパン)
夏季グローバル研修 米国サマーブ	2016 年 7 月・8	米国：ポスト ン、ワシントン	ジャパン未来フェローズ プログラム 2016 に在籍す	14	ボストン・ワシントン DC・ニューヨークを訪 問し、米国の歴史や文化、社会について学んだ。	-	6,289,484 円

プログラム 2016 ～ 村瀬二郎記念奨学 事業～	月	DC、ニューヨ ーク	る大学生・高校生		また、各都市で活躍するリーダーたちとの交流 を通し、日本の現状をアメリカの人々に伝える アンバサダーとしての役割も果たすことがで きた。ボストンでは、ハーバード大学、マサチ ューセッツ工科大学、マサチューセッツ州立大 学ボストン校を訪問し、共同プログラムの機 会があった。ワシントンDCでは、ホワイト ハウスや連邦議会、世界銀行や Council of Foreign Relations を訪問し、特別セッションに参加した。 ニューヨークでは9. 11のテロの犠牲者の家 族や友人たちとの交流や、ジャパン・ソサエ ティーでの閉会式を行った。		
夏季グローバル研 修 アジアサマー プログラム 2016	2016 年 8 月	韓国：ソウル・ 大田・釜山	ジャパン未来フェローズ プログラム 2016 に在籍す る大学生・高校生	11 名	日本全国から集まった高校生・大学生 11 名が、 韓国の学生と共にソウル、大田、釜山を訪問し、 社会格差や若者の雇用、移民など両国に共通す る課題に対して日韓の若者がどう協働できるか を考えるべく、様々な現地視察やワークショップ に参加した。プログラム中の活動は、最終的 に提言にまとめ、釜山で行われた閉会式にて発 表した。また、プログラムを通して日韓の学生 が互いの人生や将来について対話をするこ とで、国籍の違う人々との信頼構築のプロセスを 経験し、建設的な二国間関係醸成の礎となる絆 を育んだ。	2,169,860 円	2,441,615 円
ジャパン未来リー ダーズサミット 2016	2016 年 10 月	東京	1. 高校生 日本全国から募集・選抜及 びジャパン未来フェロー ズプログラム 2016 に在籍 する高校生  2. 大学生 ジャパン未来フェローズ プログラム 2016 に在籍す	1. 46 名  2. 13 名	親との死別・離別や、児童養護施設で生活して いるなど、様々な事情により機会を得ることが 難しい状況にありながらも、広く社会のために 役立つ人材となる志をもつ全国の高校生・大 学生を対象に、本サミットでは、多様な領域で活 躍するリーダーたちによるアドバイスの下、「若 者が輝く社会」の実現に向けた提言をグループ 毎にまとめ、最終日には政治・行政・ビジネス・ メディア・NGO など各方面のリーダーたちの	1,671,922 円	3,087,033 円

			る大学生  3. 卒業生 過去にビヨンドトゥモロ ーの奨学金プログラムに 参加した経験を持つ者	3. 9名	前で発表する機会を提供。「体験共有」「スピー カーセッション」「ディスカッション」「提言作 成」など様々なモジュールを通じて、幅広い領 域で活躍するリーダーたちによるアドバイスの 下、若者が輝くことができる社会のあり方につ いて提言をまとめ、最終日の閉会式で発表した。		
ビヨンドトゥモロ ー 3月オリエン テーション・プログ ラム 2017	2017 年 3月	東京・岩手・宮 城	ジャパン未来スカラース hip・プログラム 2017 参 加者及びエンデバー2017 参加者	28名	ジャパン未来スカラースhip・プログラム 2017 及びエンデバー2017 参加者が集まり、ビヨンド トゥモローについての理解を深め、仲間たちと の信頼を築き、今後の1年間、自分たちが何を したいかを考える機会を提供。前半2日は東京 で開催し、自分たちの今後のアクション・プラン を作成し、「東京フォーラム」にて、加藤勝信 一億総活躍担当大臣（当時）や、安倍昭恵首相 夫人の前で発表。後半2日は、岩手県陸前高田 市、宮城県気仙沼市及び南三陸町を訪問し、 2011年に発生した東日本大震災はどのような ものだったかを学び、また、参加者たちと同世 代の被災地の若者たちが、震災後の日々をどの ように生きてきたのかについて理解を深めた。	614,887円	954,242円
ビヨンドトゥモロ ー スプリングプ ログラム 2017	2017 年 3月	東京	ビヨンドトゥモロージャ パン未来フェローズプロ グラム 2016 に参加する学 生	25名	ジャパン未来フェローズプログラム 2016 参加 者が一堂に会し、ビヨンドトゥモロー参加者 としてのミッションをふりかえり、1年間の活動 を総括し、将来のビジョンについて考える機会 を提供。1年間を通して取り組んだ「マイ・プ ロジェクト」の成果をチーム毎にまとめた他、 スピーカー・セッションや、海外から招聘した ファシリテーターによるワークショップなどを 通じて、1年間のフェローズプログラムを通し て学んだ内容に改めて考え、今後、社会をより よいばにするために自分たちに何ができるかを 考える機会を得た。	241,551円	591,373円

以上